

生命科学総合研究支援センター年報第11号

目 次

岐阜の地に生命科学研究拠点の形成を目指して	
生命科学総合研究支援センター長 下澤伸行	1
生命科学総合研究支援センターへの期待	
理事（学術研究・情報担当）・副学長 福土秀人	2
生命科学総合研究支援センターの思い出と将来への期待	
理事（国際・広報担当）・副学長 鈴木文昭	3
センターの理念と目的	4
センターの憲章、基本戦略	4
センター組織図	6
センター沿革	8
センター各分野所在地	9
平成25年度活動状況報告	10
平成25年度支援状況	11
平成25年度岐阜大学公開講座	12
センター規程・運営委員会細則・教授会細則	13
分野ごとの報告	
●ゲノム研究分野	17
●嫌気性菌研究分野	49
●放射性同位元素管理室（柳戸施設・医学施設）	53
●動物実験分野	69
●機器分析分野	101
●抗酸化研究部門	177
編集後記	178

岐阜の地に生命科学研究拠点の形成を目指して



生命科学総合研究支援センター長 下澤 伸行

当センターは平成15年に全学共同の教育研究基盤拠点として、ゲノム・嫌気性菌・動物・機器の4分野と放射性同位元素（RI）を扱う2事業所が統合して設置され、昨年度には新たに抗酸化研究部門が寄附研究部門として加わりました。この間、設備の充実はもとより、講習会、セミナー、教育訓練等により安全管理、法令遵守を踏まえた基盤提供を行いながら、岐阜薬科大学との共同利用の推進、機器分析分野の総合研

究棟Ⅱへの移転等、中長期的視野で効率的な研究基盤の提供を目指しています。

昨今の生命科学に関する解析技術の進歩は著しく、研究基盤が研究成果に直結する一方で、国立大学法人を取り巻く財政環境は益々厳しい状況にあります。また研究成果への社会的期待が高まるにつれ、その公正さも研究費執行や研究環境のコンプライアンスとともに厳しく要求されています。当センターと致しましても、最新の研究基盤を集約して安全かつ効果的に提供して、多くの学内研究者がその成果を岐阜の地から世界に発信出来る様、貢献して参りたいと存じますので、更なるご理解とご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

その中で、今年度も各分野が独自性を保ちながらセンター全体での全学研究支援施設として機動性を持った運営を図るための組織改革を進めるとともに、研究基盤の更なる整備と機器分析の総合研究棟Ⅱへの移転事業を推進する予定です。

以上を踏まえた各分野の課題を下記に列挙します。

【ゲノム研究分野】

- ・昨年度導入した細胞イメージング解析装置の学内利用拡大
- ・次世代シーケンサの導入（平成27年度概算要求）

【嫌気性菌研究分野】

- ・国内でも特異な嫌気性菌リソースセンターとしての機能整備と研究の推進
- ・RI施設の利用拡大：自然放射線測定による環境科学、教育実習への展開

【動物実験分野】

- ・法令を遵守した施設運用と岐阜薬科大学の利用拡大への対応

【機器分析分野】

- ・総合研究棟Ⅱへの機器移設
- ・平成27年度以降の機器分析分野医学施設の方針

生命科学総合研究支援センターへの期待



理事（学術研究・情報担当）・副学長 福士 秀人

昨年度行われたミッションの再定義において岐阜大学の強みの一つに生命科学があげられた。岐阜大学は医学、薬学、獣医学が一つのキャンパスに存在しており、他の地方大学にはない大きな特色をもっている。この特色を支える施設として生命科学総合研究支援センターの役割は大きく、研究者がさらにこのセンターを研究や交流の場として利用されることが望まれる。

現代の生命科学の根幹をなすものの一つは「ゲノム」であろう。私自身、ウイルスを研究対象とし、ここ数年はウイルスゲノムの解読と解析を続けている。様々なウイルスゲノムを解読し、比較することによりウイルスの性質を決めている遺伝情報が見えてくる。この遺伝情報にもとづき、ウイルスゲノムを改変し、ウイルス学的な性質がどのように変化するかをみることができる。私が扱っているウイルスはウマヘルペスウイルスで、ゲノムは比較的大きく150kpbs、文字数でいえば15万文字、400字詰め原稿用紙にして375枚に相当する情報量をもっている。かつてはこのようなゲノムの解読はかなりの経費と時間を要していたが、次世代シーケンサの発展により、安価で短時間に解読することができるようになった。そのおかげで、これまでに30種類以上のウマヘルペスウイルスゲノムの解読をすることができている。さらに、遺伝情報はDNAからRNAの形でとりだされるが、ゲノムに含まれる情報が全ていっせいに使われるわけではない。適材適所で、必要なときに必要な情報が引き出され、生命活動がなされている。ウイルスにおいても同様であり、細胞の中に入ったばかりの時と、細胞から出ようとする時では使われる遺伝子が異なることがわかっている。これまでは遺伝子一つ一つについて、いつ頃、ゲノムのどの部分から取り出されるかを調べてきたが、次世代シーケンサを使えば、網羅的に調べることができる。ウマヘルペスウイルスについても、細胞に入ってからでるまでに、どの遺伝子がどのように使われているかを次世代シーケンサを用いて解析し、予想以上に細やかな制御がなされていることを見いだしている。

生命科学の進展は実験道具の発展でもある。顕微鏡の発明は、細胞や微生物の発見につながり、X線の発見は医学の進展に加え、分子の形を見ることへとつながっていった。次世代シーケンサも同様に大きな可能性をもっており、すでに多くの成果が得られている。一方で、次世代シーケンサで得られる情報量は膨大であり、これまでのような解析では追いつかず、いわゆるバイオインフォマティクス解析が必要となっている。

残念なことにこれら次世代シーケンサを用いた解析は岐阜大学の生命科学総合研究支援センターでは行うことができず、外部へ依頼して行っている。また、バイオインフォマティクスに関する支援も得ることができない。日本版NIHの創設に関する議論において、我が国はゲノム創薬で大きな遅れをとったとされている。医学、薬学、獣医学が一つのキャンパスにあり、連携することで特色を出すとき、このゲノムを基盤とした研究は大きなものになると期待される。この特色を活かすためにも、次世代シーケンサの導入やバイオインフォマティクス支援など、生命科学総合研究支援センターに期待することは大きい。

生命科学総合研究支援センターの思い出と将来への期待



理事（国際・広報担当）・副学長 鈴木 文昭

本学の学生・教職員の研究を惜しみなく支援していただいているセンターおよび関係されている教職員の方々に対して、冒頭をお借りして心よりお礼を申し上げたい。およそ20年前、私はゲノム研究分野（当時の遺伝子実験施設）の専任教員として支援業務を担っていた。本稿を纏めている際に当時の記憶が鮮明に思い出されてきた。現在の私があるのも、その当時学んだサービス精神が基盤となっている。また、実験棟の

基本設計や設備要求など、事務部の方々との共同作業についても同様である。大学とはどういうものであるかを肌で感じる機会を得た。多くの外国人留学生への大型機器の扱いについての説明も行った。私が指導していた学生への説明が一番下手であったことを覚えている。これらは、今となっては大変に良い思い出である。

その後農学部の教員に異動になってから数年後から現在までの間は、ほとんどセンター業務について思い出すことは無かった。その後、連合農学研究科長職に就いて一種のサービス業務である運営に携わることになった。その中で、海外の複数の協定大学からラボ・ステーションの無償提供を受けることが決まった。連合農学研究科の学生が海外で学ぶ場でもある。もちろん、現地の協定大学の教員と学生も使用する。ラボ・ステーション内の設備は岐阜大で用意することとなった。その時、頭に浮かんだのが20年前の自分である。ひょっとしたら学内の研究室やセンター保有の小型備品で眠っているものが多くあるかもしれないと思った。実際、下澤センター長に昨年度末にお尋ねしたら、先日リストが送られてきた。研究科長を辞した後ではあったが、本学の温かさが嬉しかった。その時、ラボ・ステーション（環境科学、天然物化学、生化学・分子生物学等）の1つをセンター・ランチとして岐阜大学とセンターのフラッグを提示した研究拠点にできればと思った。他の数か所のラボ・ステーションについても同様であるが、どの研究拠点にも本学の大型機器の写真をパネル展示し、本学の生命科学総合研究支援センターでの利用を促したいと思っている。海外の協定大学との大型機器の共同利用の可能性である。是非御検討願いたい。

「帰国したら機器の使用ができないので、岐阜大で学んだことが母国の大学教育や研究に活かさない」という外国人修士生のお話を良く耳にする。一方、大学の国際化やグローバル化が必至の現在、海外の協定大学と協働教育および研究システムを構築して進めることができれば、本学は国際化した大学として地域社会を牽引することができると思っています。「生命科学総合研究支援センターの海外協定大学との双方向の国際対応化」である。本センターの役割は今後も益々重要になってくる。

センターの理念と目的

1. 概要

岐阜大学における生命科学研究を積極的に推進させるために、機器の共同利用の高効率化と高精度化により統合的な問題解決のための研究基盤を整備し、かつ人的・知的交流も活発化して学部や地域を越えたハブとしての機能を発揮できるセンターを目指す。

2. 研究のサポート

- (1) 先端的研究を支える大型機器の共同利用（導入・維持・更新）
- (2) 特別管理された実験室の共同利用

3. 教育のサポート

- (1) 実験技術の普及と教育研究のレベルアップ
- (2) 安全管理と教育訓練

4. 社会への貢献

- (1) 岐阜県の科学教育の支援と市民の啓蒙活動
- (2) 地域との連携とベンチャービジネスの育成

5. 運営について

- (1) センター活動の学内外への広報と利用・受託サービスの拡充
- (2) 共同プロジェクトによる大型研究費の導入と利用負担金・受託研究費の有効利用

センターの憲章、基本戦略

平成19年 4月 1日

【憲章】

岐阜大学および地域における生命科学研究の教育・研究基盤拠点として機能する

生命科学総合研究支援センターは岐阜大学の理念に基づき、学内外の共同利用施設として生命科学分野を含めた総合的な教育・研究基盤となる設備、機器を整備し、かつ人的・知的交流も活発化して学部や学内外の枠を越えた「地域の知の拠点」としての機能を目指す。

1. 全学を対象に、生命科学を含めた総合的な専門知識、技術を習得し、安全管理、教育訓練を通じて高度な倫理観を身につけた人材を育成する。【生命科学・安全教育】
2. 大学における高度な教育・研究水準を維持するため、生命科学の研究基盤を積極的に整備し、全学的な利用を推進する。【研究基盤整備】
3. 生命科学を軸に学部を超えた研究の融合、共同研究の展開を図り、競争的研究資金の獲得を目指す。【全学的共同研究の推進】
4. 大学院連合に積極的に参加し、地域の特性を活かした独創的研究分野を開拓し、質の高い研究を推進する。【大学院連合による先端教育・研究の推進】
5. 地域における生命科学分野の教育、研究基盤施設として地域科学産業の振興に貢献し、研究資源・大型設備の学外への解放、共同・受託研究の展開等、産官学の融合を積極的に進める。【地域の知の拠点形成】

6. 地域教育と文化への貢献を目指し、公開講座や学校教育への積極的支援を進めて、科学知識の市民への啓蒙を図る。 【地域社会教育・文化への貢献】
7. 研究基盤整備の要求に加え、利用者負担や学外利用、機器の再生・利用拡大を進め、効率的かつ戦略的な経営と管理運営を行う。 【自助努力・リユースも踏まえた戦略的運営】

【基本戦略】

(1) 教育基本戦略：

- ・生命科学分野の講義・実習を通して全学的な教育支援を行う。
- ・教育目標達成に必要な基盤経費を確保し、配分する。
- ・教育環境を整備し、拡充する。
- ・各大学院のカリキュラムに添って、専門教育を積極的に協力・支援し、社会の要請に応える資質能力を持った学生を育てる。
- ・岐阜薬科大学との連合大学院の充実に積極的に参加するとともに、生命科学を含めた総合的な教育環境を提供する。

(2) 研究基本戦略：

- ・目標を高くもち、世界レベルの研究を行う。
- ・研究の活性化を図り、世界トップレベルの研究を育てる。
- ・独自色のある研究を重視し、継続する。
- ・若手研究者を重視した組織構成に転換を図る。
- ・戦略的に特色ある研究を発展させる。
- ・岐阜薬科大学との共同研究、研究基盤の共同利用を進める。
- ・高い評価を受けている研究、将来性のある研究に資源を重点的に配分する。
- ・競争的環境にチャレンジする。
- ・科学研究費に全教員が申請し、より多く、より大型の研究費を獲得するよう務める。
- ・文部科学省以外のナショナルプロジェクトにも積極的に応募し、資金を獲得する。
- ・外部資金のための情報を収集し、推進に必要な最新の設備を整備して提供する。
- ・全学的研究支援センターとして整備する。
- ・戦略的・長期的・全学的見地から研究設備整備計画（マスタープラン）を立てる。

(3) 社会貢献基本戦略：

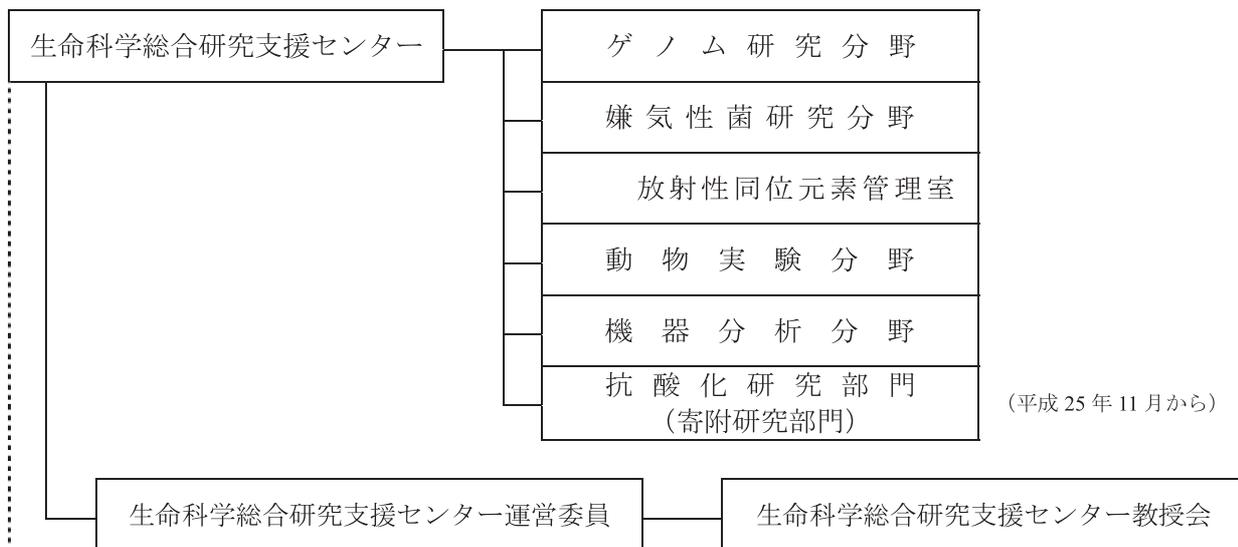
- ・シーズの開発、ニーズに対応して研究資源を学外に解放し、産業に貢献する。
- ・生命科学分野の研究基盤施設として地域の産業の振興と発展に貢献する。
- ・教職員は社会貢献に積極的に参画し、広い視野から地域に貢献する。
- ・地域住民に生命科学知識についての啓蒙活動を行う。
- ・大学の講義や施設・設備を地域住民に開放し、地域文化に貢献する。
- ・地域住民の文化活動と生涯教育に参加する。
- ・各種の学校への生命科学分野の教育支援を行う。

(4) 運営基本戦略：

- ・中期目標、中期計画を確実に実行する。
- ・評価を運営に生かす。
- ・透明、効率的、迅速な運営をする。
- ・全学的な研究水準の維持、向上に必要な基盤整備を要求するとともに、利用者負担等による自助努力を進め、効率的な経営を行う。
- ・既存の設備・機器の再生、ネットワーク等による利用拡大を進め、リユースを図る。
- ・外部資金を獲得するため大学としての戦略を図り、研究基盤施設を整備し支援する。
- ・環境に配慮した運営をする。

センター組織図 () 内は内線番号

(平成26年 3月31日まで)



(平成 25 年 11 月から)

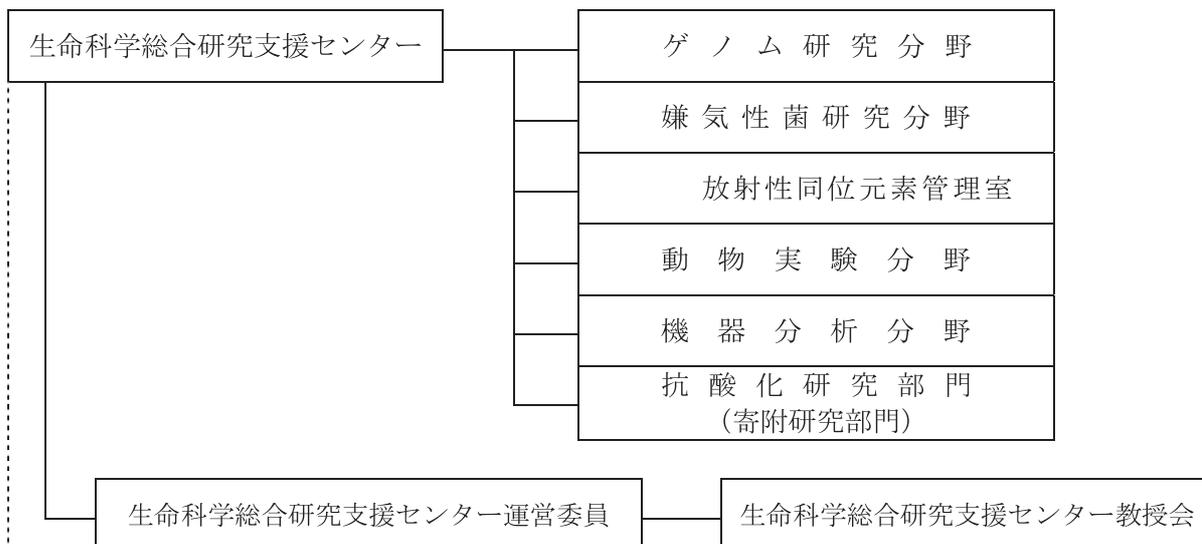
区	分	平成 25 年度運営委員 [任期]	平成 25 年度教授会員
生命科学総合研究支援センター長 (委員長)		下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170)
教育学部		古屋 康則 (2255) [H24.4.1~H26.3.31]	
地域科学部		向井 貴彦 (3027) [H24.4.1~H26.3.31]	
医学系研究科・医学部		湊口 信也 (6520) [H24.4.1~H26.3.31]	
医学部附属病院		岩田 尚 (6323) [H24.4.1~H26.3.31]	
工学部		沓水 祥一 (2573) [H25.4.1~H26.3.31]	
応用生物科学部		長岡 利 (2931) [H24.4.1~H26.3.31]	
生命科学総合研究支援センター	ゲノム研究分野 RI 管理室総括管理者	下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170) 須賀 晴久 (3173) 高島 茂雄 (3174)
	嫌気性菌研究分野	田中 香お里 (6552)	田中 香お里 (6552) 後藤 隆次 (6553) 林 将大 (6554)
	動物実験分野	二上 英樹 (6609)	二上 英樹 (6609) 平田 暁大 (6610)
	機器分析分野	近江 靖則 (2037)	近江 靖則 (2037) 鎌足 雄司 (6151) 犬塚 俊康 (6152)

学術国際部
研究支援課

課長 山口 昇 (3347)
 課長補佐 堤 富士夫 (3344)
 研究施設係長 西村 達也 (3352)
 研究施設係 増田 優 (2014)
 杉山 純子 (9693)

センター組織図 () 内は内線番号

(平成26年4月1日から)



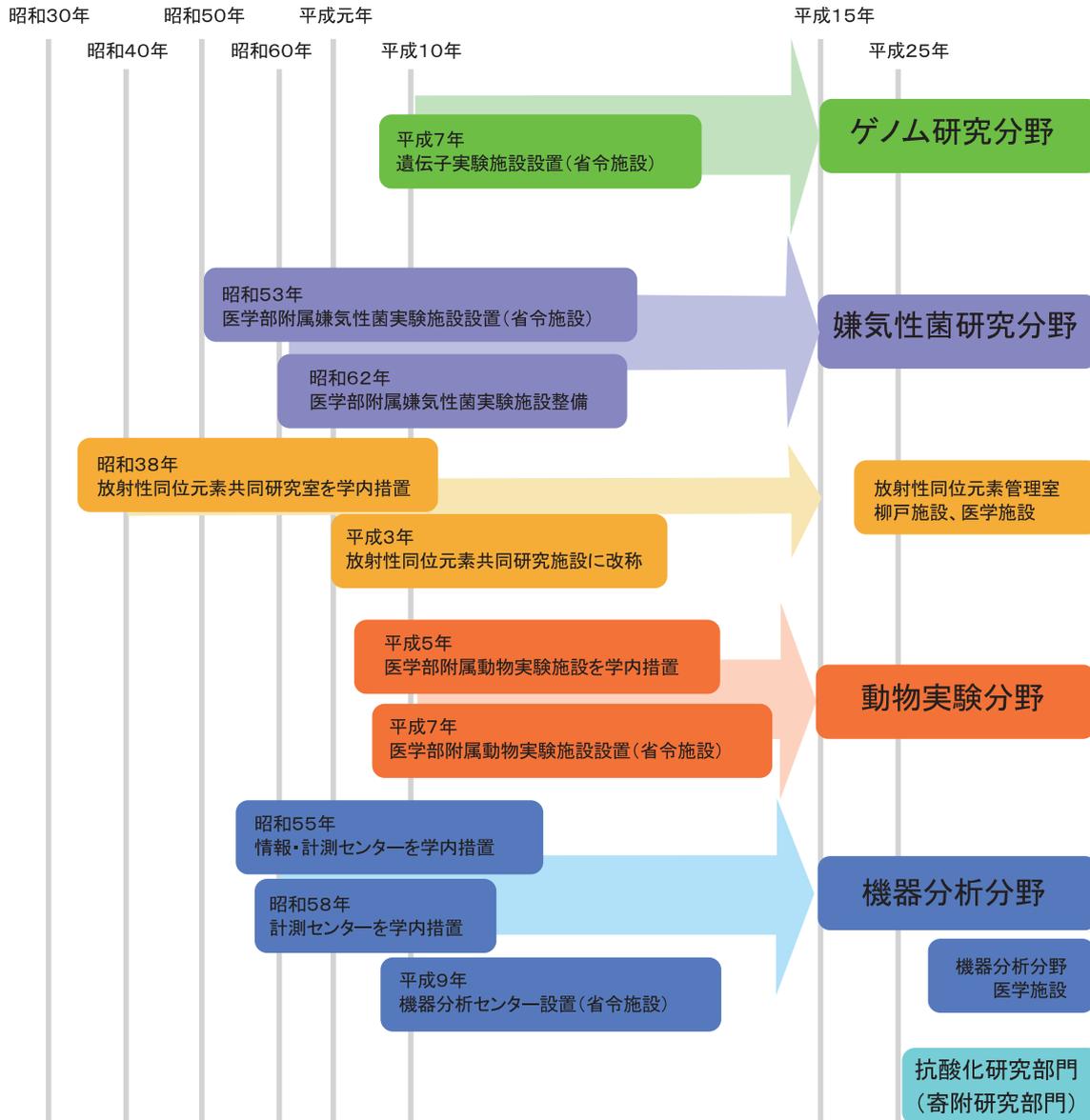
区	分	平成26年度運営委員 [任期]	平成26年度教授会員
生命科学総合研究支援センター長 (委員長)		下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170)
教育学部		古屋 康則 (2255) [H26.4.1~H28.3.31]	
地域科学部		肥後 睦輝 (3074) [H26.4.1~H28.3.31]	
医学系研究科・医学部		湊口 信也 (6520) [H26.4.1~H28.3.31]	
医学部附属病院		岩田 尚 (6323) [H26.4.1~H28.3.31]	
工学部		沓水 祥一 (2573) [H26.4.1~H28.3.31]	
応用生物科学部		小山 博之 (2911) [H26.4.1~H28.3.31]	
生命科学総合研究支援センター	ゲノム研究分野 RI管理室総括管理者	下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170) 須賀 晴久 (3173) 高島 茂雄 (3174)
	嫌気性菌研究分野	田中 香お里 (6552)	田中 香お里 (6552) 後藤 隆次 (6553) 林 将大 (6554)
	動物実験分野	二上 英樹 (6609)	二上 英樹 (6609) 平田 暁大 (6610)
	機器分析分野	近江 靖則 (2037)	近江 靖則 (2037) 鎌足 雄司 (6151) 犬塚 俊康 (6152)

学術国際部
研究支援課

課長 蓑島 博徳 (3347)
 課長補佐 佐藤 忠 (3344)
 研究施設係長 西村 達也 (3352)
 研究施設係 増田 優 (2014)
 杉山 純子 (9693)

センター沿革

生命科学総合研究支援センター



- 平成15年
 - 生命科学総合実験センター設置
 - ゲノム研究分野、嫌気性菌実験分野、動物実験分野、機器分析分野の4分野を設置
 - 放射性同位元素共同研究施設と遺伝子実験施設を統合しゲノム研究分野へ
 - 初代センター長に渡邊邦友教授が就任
- 平成17年
 - 生命科学総合研究支援センターへ改称
 - 嫌気性菌実験分野を嫌気性菌研究分野へ改称
 - ゲノム研究分野放射性同位元素管理室に改称し、柳戸施設と医学施設の2施設稼働
- 平成18年
 - 2代センター長に下澤伸行教授が就任
- 平成22年
 - 3代センター長に渡邊邦友教授が就任
- 平成23年
 - 機器分析分野医学施設稼働
- 平成24年
 - 4代センター長に下澤伸行教授が就任
- 平成25年
 - 放射性同位元素管理室に改称し、担当をゲノム研究分野から嫌気性菌研究分野へ変更
 - 寄附研究部門「抗酸化研究部門」設置(3年間)
- 平成26年
 - 総合研究棟Ⅱ完成予定

センター各分野所在地

嫌気性菌研究分野

機器分析分野医学施設

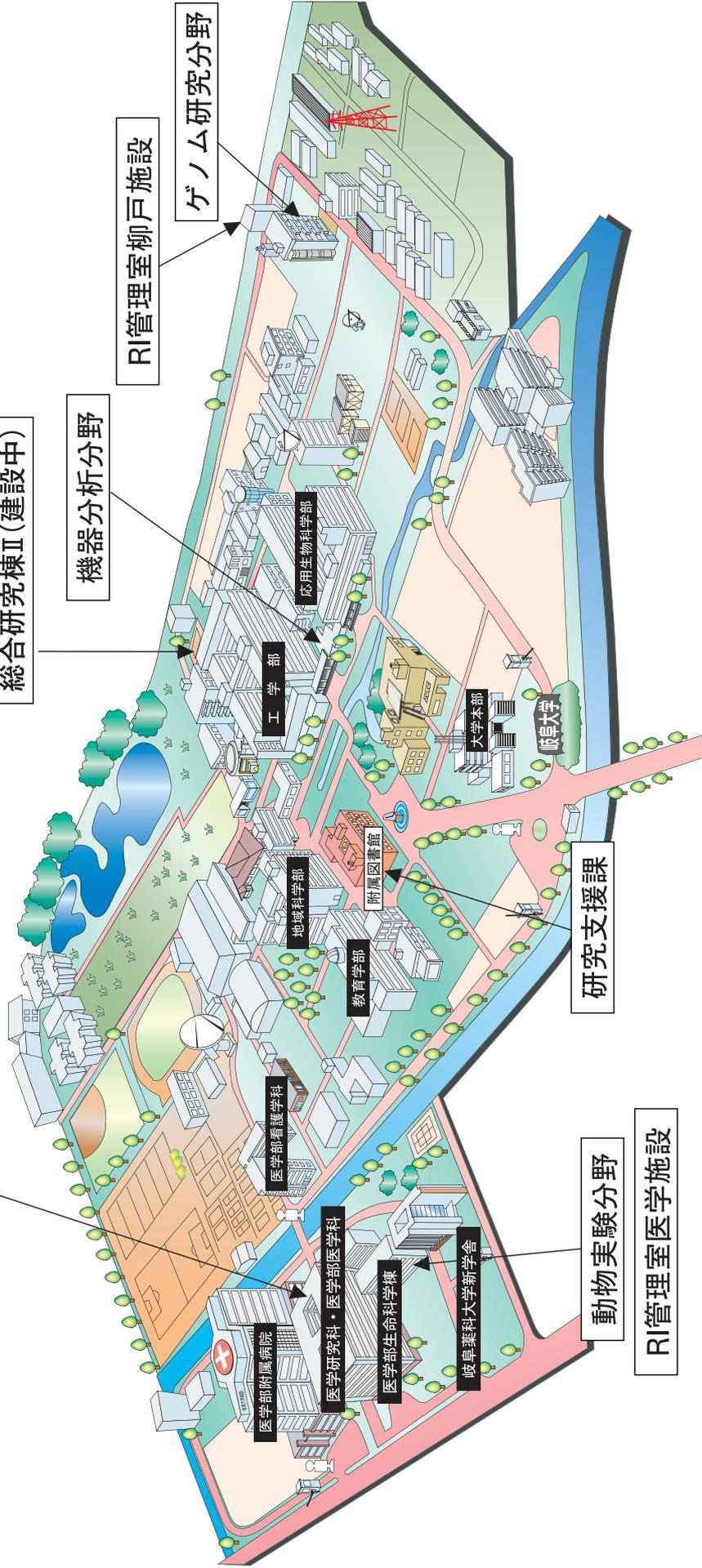
抗酸化研究部門

総合研究棟Ⅱ(建設中)

機器分析分野

RI管理室柳戸施設

ゲノム研究分野



研究支援課

動物実験分野

RI管理室医学施設

平成25年度活動状況報告

生命科学総合研究支援センター教授会
第113回生命科学総合研究支援センター教授会
平成25年4月24日（水）
議題（1）貢献度実績・自己点検評価に係るガイドライン及び部局項目について

第114回生命科学総合研究支援センター教授会
平成25年5月22日（水）
議題（1）若手支援経費について
（2）寄附金の受入れについて
（3）嫌気性菌研究分野の教員人事について

第115回生命科学総合研究支援センター教授会
平成25年6月26日（水）
議題（1）機種選定委員会委員について
（2）受託研究について
（3）嫌気性菌研究分野教授選考委員会委員について

第116回生命科学総合研究支援センター教授会
平成25年7月24日（水）
議題（1）嫌気性菌研究分野教授選考について

第117回生命科学総合研究支援センター教授会
平成25年9月25日（水）
議題（1）寄附金の受入れについて
（2）寄附研究部門について

第118回生命科学総合研究支援センター教授会
平成25年10月23日（水）

第119回生命科学総合研究支援センター教授会
平成25年11月25日（月）
議題（1）次期センター長候補予定者の選考について

第120回生命科学総合研究支援センター教授会
平成25年12月25日（水）
議題（1）寄附金の受入れについて
（2）次期センター長候補者の選考について

第121回生命科学総合研究支援センター教授会
平成26年1月22日（水）
議題（1）平成26年度公開講座実施計画について

第122回生命科学総合研究支援センター教授会
平成26年2月26日（水）
議題（1）共同研究の受入れについて
（2）寄附金の受入れについて
（3）平成26年度委員会委員について
（4）平成26年度各分野担当について

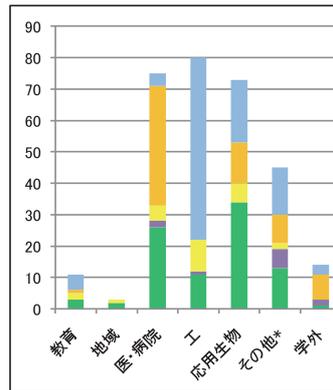
第123回生命科学総合研究支援センター教授会
平成26年3月24日（月）

平成25年度支援状況

平成25年度登録グループ数

	教育	地域	医・病院	工	応用生物	その他*	学外
ゲノム研究分野	3	2	26	11	34	13	1
嫌気性菌研究分野	0	0	2	1	0	6	2
放射性同位元素管理室	2	1	5	10	8	7	0
動物実験分野	1	0	38	0	13	9	8
機器分析分野	5	0	4	58	20	15	3

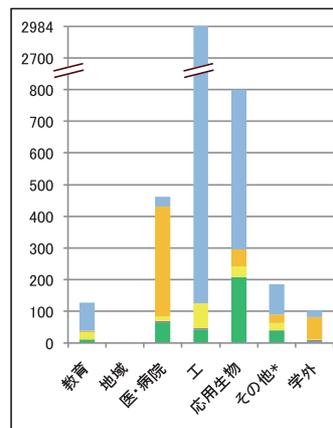
* その他:生命セ、流域、情報メディア、連合創薬、連合農業など
放射性同位元素管理室は、柳戸施設と医学施設との合計で重複有り
機器分析分野は、柳戸施設と医学施設との合計で重複有り



平成25年度登録者数

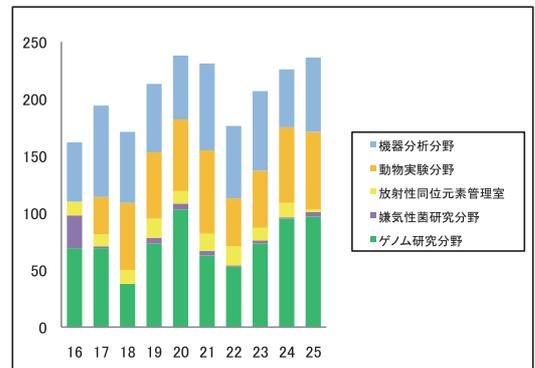
	教育	地域	医・病院	工	応用生物	その他*	学外
ゲノム研究分野	12	3	66	42	209	38	6
嫌気性菌研究分野	0	0	3	5	0	2	4
放射性同位元素管理室	22	1	16	79	32	23	2
動物実験分野	5	0	346	0	54	28	70
機器分析分野	89	0	31	2766	505	95	20

* その他:生命セ、流域、情報メディア、連合創薬、連合農業など
放射性同位元素管理室は、柳戸施設と医学施設との合計で重複有り
嫌気性菌研究分野は支援件数の総計で重複有り
機器分析分野は、装置ごとの登録者数の総計および柳戸施設と医学施設との合計で重複有り



センターを利用して発表された論文(研究支援論文)数推移

	年度									
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
ゲノム研究分野	69	69	38	73	103	63	53	73	95	97
嫌気性菌研究分野	29	2	0	5	5	4	1	3	1	4
放射性同位元素管理室	12	10	12	17	11	15	17	11	13	2
動物実験分野	0	33	59	58	63	73	42	50	66	68
機器分析分野	52	80	62	60	56	76	63	70	51	65



岐阜大学 公開講座

生命科学への扉 ～研究がもたらすもの～

多彩な世界が広がる生命科学 いくつかの扉を開いて中をのぞいてみませんか？
岐阜大学の研究者が分かりやすくお話しします。

日時 平成25年11月16日(土) 13:00～16:30 **定員** 36名

会場 岐阜大学サテライトキャンパス(JR岐阜駅前)

参加費 無料(10月31日(木)までにお申込み下さい。) **対象者** 学生、一般市民

プログラム

講演 1

ゲノムという 古文書を読む

— 遺伝子の分子進化と
祖先遺伝子の再現 —

医学部
武藤 吉徳

講演 2

先端生命科学の 2大革命

iPS細胞と次世代遺伝子診断

ゲノム研究分野
高島 茂雄

講演 3

最先端の ライフサイエンス研究を 支える縁の下の力持ち

— マウスの話 —

動物実験分野
二上 英樹

講演 4

農薬の創製研究

— 合成実験台から市場まで —

教育学部
利部 伸三

閉講式・ 修了証の授与

生命科学総合研究支援
センター長
下澤 伸行



主催：岐阜大学生命科学総合研究支援センター

申込方法 郵便・FAX・Eメールにて、住所・氏名・年齢・連絡先をお伝えください。申し込みされた方には、後日案内通知を交付します。

申込・問い合わせ先 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学学術国際部研究支援課 TEL:058-293-2014 FAX:058-293-3209 E-mail:gjai04004@jim.gifu-u.ac.jp

岐阜大学生命科学総合研究支援センター規程

平成19年10月1日
規程第64号

(趣旨)

第1条 この規程は、岐阜大学学則第13条第2項の規定に基づき、生命科学総合研究支援センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、国立大学法人岐阜大学(以下「本学」という。)の共同教育研究基盤施設として、生命科学に関連する先進的分野の教育研究を行うとともに放射性同位元素、実験動物、大型分析機器等の適切な管理を行うことにより、本学における生命科学分野の教育研究の総合的推進を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 センターに次の表の左欄に掲げる分野を置き、同表の右欄に掲げる業務を行う。

分 野	所 掌 業 務
ゲノム研究分野	一 ゲノム等生命科学分野における研究 二 生命科学分野の研究基盤整備及び技術指導 三 その他ゲノム研究に関すること。
嫌気性菌研究分野	一 嫌気性菌感染症及び嫌気性菌症の診断、病因、治療、予防等に関する基礎的・臨床細菌学的研究 二 偏性嫌気性菌を中心とした遺伝資源の系統保存 三 放射性同位元素の管理及び放射性同位元素を用いた教育研究の支援 四 その他嫌気性菌実験に関すること。
動物実験分野	一 動物実験モデル及び実験用動物の開発研究 二 実験動物の飼育管理及び実験動物を用いた教育研究の支援 三 その他動物実験に関すること。
機器分析分野	一 ナノスケールにおける新規分析技術の開発研究 二 生体試料及び機能性化合物の分子構造解析に関する研究支援 三 分析機器の維持管理及び分析技術の指導 四 その他機器分析に関すること。

(職員)

第4条 センターに次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 専任の教育職員
- 三 その他の職員

(センター長の職務)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

(センター長等の選考)

第6条 センター長及びセンターの専任の教育職員の選考については、別に定める。

(分野長)

第7条 各分野に分野長を置き、当該分野の専任の教授、准教授又は講師をもって充てる。

2 分野長は、センター長の命を受け、当該分野における業務(嫌気性菌研究分野長にあっては、放射性同位元素の管理等に関する業務を除く。)を総括し、及び整理する。

(放射性同位元素管理室総括管理者)

第8条 嫌気性菌研究分野の放射性同位元素管理室に総括管理者を置き、センターの専任の教育職員をもって充てる。ただし、適任者が得られないときには、センター以外の教育職員をもって充てることができる。

2 総括管理者は、センター長の命を受け、放射性同位元素管理室における放射性同位元素の管理等の業務を総括し、及び整理する。

(教授会)

第9条 センターに、生命科学総合研究支援センター教授会（以下「センター教授会」という。）を置く。

2 センター教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第10条 センターに、センターの共同利用に関する事項、センター長から諮問された事項等を審議するため、生命科学総合研究支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(機器分析分野協力員)

第11条 機器分析分野に、当該分野の業務に協力し、利用及び分析技術の研究、開発等を行うため、機器分析分野協力員を置くことができる。

2 機器分析分野協力員は、本学の専任の教育職員をもって充てる。

3 前項に規定するもののほか、機器分析分野協力員に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第12条 センターに関する庶務は、学術国際部研究支援課において処理する。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規程は、平成19年10月1日から施行する。

2 岐阜大学生命科学総合研究支援センター規則（平成16年岐阜大学規則第158号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成21年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

岐阜大学生命科学総合研究支援センター運営委員会細則

平成19年10月1日
細則第67号

(趣旨)

第1条 この細則は、岐阜大学生命科学総合研究支援センター規程第10条第2項の規定に基づき、生命科学総合研究支援センター（以下「センター」という。）に置く生命科学総合研究支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、センターに関する次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 共同利用に関すること。
- 二 実験施設等の利用に係る安全管理に関すること。
- 三 センター長から諮問された事項
- 四 その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 センター長
 - 二 センターの各分野の長及び放射性同位元素実験施設総括管理者
 - 三 各学部（医学部を除く。）から選出された教育職員 各1人
 - 四 医学系研究科・医学部から選出された教育職員 1人
 - 五 医学部附属病院から選出された教育職員 1人
 - 六 その他委員会が必要と認める者
- 2 前項第6号に規定する委員には、外部有識者を含めることができる。
- 3 第1項第3号から第6号までに規定する委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第3号及び第4号に規定する委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときの補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、センター長をもって充てる。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- 2 議事は、出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(専門部会)

第8条 委員会は、必要に応じ、特定の事項を審議するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

第9条 委員会は、その定めるところにより、専門部会の議決をもって委員会の議決とすることができる。

(雑則)

第10条 この細則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この細則は、平成19年10月1日から施行する。
- 2 岐阜大学生命科学総合研究支援センター運営委員会規則（平成16年岐阜大学規則第160号）は、廃止する。

附 則

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

岐阜大学生命科学総合研究支援センター教授会細則

平成19年10月1日
細則第66号

(趣旨)

第1条 この細則は、岐阜大学生命科学総合研究支援センター規程第9条第2項の規定に基づき、生命科学総合研究支援センター（以下「センター」という。）に置く生命科学総合研究支援センター教授会（以下「センター教授会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 センター教授会は、国立大学法人岐阜大学運営組織規則第18条に規定する事項及びセンター教授会が必要と認める事項を審議する。

(組織)

第3条 センター教授会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 センターに所属する専任の教育職員

(議長)

第4条 センター長は、センター教授会を主宰し、その議長となる。

2 センター長に事故があるときは、センター長があらかじめ指名する教授がその職務を代理する。

(会議)

第5条 センター教授会は、その構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 議事は、出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、教育職員の人事に関する事項についての議決は、出席者の3分の2以上の同意を要する。

(構成員以外の者の出席)

第6条 放射性同位元素実験施設総括管理者がセンター以外の教育職員の場合は、その者は、センター教授会に出席し、意見を述べることができる。

(雑則)

第7条 この細則に定めるもののほか、センター教授会の運営その他に関する事項は、センター教授会が定める。

附 則

この細則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

●編集後記

平成15年に生命科学総合実験センターとして設置されてから、早11年目を迎えました。昨年11月には寄付研究部門として新たに抗酸化研究部門が設置されました。

生命科学研究の発展はめざましく、研究手法の進歩に伴い、研究を支援する機器への要求も高度化かつ複雑化しています。今後、学内における当センターの果たす役割はますます増加していくものと予想されます。当センターが特色のある施設となり、また、学内の利用者が常に当センターを利用し成果を得られるようにスタッフ一同、日々努力していく所存です。

末筆ながら、本年報を作成するにあたり、ご多忙中にもかかわらず多大なるご協力を賜りました、学内外の皆様方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

平成26年7月

編集担当

生命科学総合研究支援センター
嫌気性菌研究分野
林 将大